



風水害には、台風や強風などによって引き起こされる豪雨や河川の氾濫、洪水、強風による被害、土砂災害などがあります。情報収集はもちろん気象状況により想定される災害を予測し、早めの避難行動をとることが重要です。「災害対策の手引き」と同様、風水害の脅威を知り、できる対策を社内で考えてみましょう。

大雨が引き起こす災害から身を守る

雨が降り出す

大雨になる恐れ

雨が強くなると

注意報

大雨が降り続くと

警報

さらに激しい大雨が続くと

気象情報・空の変化に注意

- ・周りより低い場所など、危険箇所を把握
- ・避難場所や避難経路を確認

最新の気象情報に注意して、災害に備えた早めの準備を

- ・気象情報や外の様子に注意
- ・持出備蓄品の準備、避難場所・避難経路を確認
- ・災害に備えて建物の外の備えを点検

自治体が発表する避難に関する情報に注意

- ・市町村からの避難勧告・指示に伴い、必要に応じ避難所などへ避難
- ・外出が危険な場合は、建物の中でも安全な場所に移動

「特別警報」 = すぐ行動！

速やかに避難行動を開始してください

Point

- ・気象情報に注意して安全確保
- ・浸水対策や暴風への備えを怠らない
- ・風の向きに注意する(瓦、がれきや塗料の飛散への備え)
- ・施工現場などのハシゴの掛けっぱなしに注意
- ・足元が滑りやすくなるので滑りにくい靴をはき、小川やマンホールに注意
- ・お客様から連絡があるかもしれないでスタンバイしておく
- ・浸水が予想される地域では、重要書類やPC、サーバーなどをなるべく2階に置くようとする

大雨になると身動きがとれなくなってしまうため、できるだけ早めの行動を心がけましょう



台風とは

熱帯の海の上で生まれた「熱帯低気圧」のうち、強い雨や風を伴い、最大風速がおよそ17m/s以上のものを台風と呼びます。

台風の強さを表す階級分け

最大風速		階級
(m/s)	(ノット)	
33未満	64未満	なし
33以上～44未満	64以上～85未満	強い
44以上～54未満	85以上～105未満	非常に強い
54以上	105以上	猛烈な

台風の大きさを表す階級分け

風速15m/s以上の半径	階級
500km以上～800km未満	大型(大きい)
800km以上	超大型(非常に大きい)



台風がもたらすさまざまな災害

大雨　強風　波浪(高波)　高潮

「高潮」は、台風や発達した低気圧により波浪が発生して海面全体の水位が上昇する現象です。水位が想定以上に高くなると、防潮堤を乗り越えて大規模な浸水被害をもたらすこと。津波と同じような警戒が必要です。





集中豪雨とは

限られた地域に集中的に短時間に多量の雨が降ることをいい、梅雨の終わり頃から秋にかけてよく起こります。狭い地域で突発的に降るため予報は比較的困難で、河川の氾濫や土砂崩れ、かけ崩れなどによる被害が予想されます。気象情報に注意し、万全の対策をとりましょう。

1時間の雨量と災害発生状況

1時間の雨量mm	予報用語	災害発生状況
10以上～20未満	やや強い雨	長く続く時は注意が必要
20以上～30未満	強い雨	側溝や下水、小さな川が溢れ、小規模のがけ崩れが始まる。
30以上～50未満	激しい雨	山崩れ・かけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。
50以上～80未満	非常に激しい雨	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80以上	猛烈な雨	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

(気象庁の資料をもとに作成)



土砂災害とは

土砂災害には、「かけ崩れ」「地すべり」「土石流」の3つの種類があります。突発的に起こり、凄まじい破壊力で一瞬にして生命や財産を奪ってしまいます。少しでも危険を感じたら早めに避難することが大切です。また、これらが起こるときには、何らかの前兆現象が現れることがあります。次のような前兆現象に気づいたら、周囲の人たちにも知らせ、安全な場所に避難してください。

かけ崩れ　急な斜面が大雨によって緩み、突然崩れ落ちる現象

- かけにひび割れができる
- 小石がパラパラと落ちてくる
- かけから水が湧き出る
- 湧き水が止まる・濁る
- 地鳴りがする

地すべり　広い範囲の地盤がゆっくりと動き出す現象

- 地面がひび割れ陥没
- 斜面から水が噴き出す
- 井戸や沢の水が濁る
- 地鳴り・山鳴りがする
- 葉木が傾く

土石流　谷や渓谷から土砂や石、木を含んだ濁流が一気に下流へ押し流される現象

- 山鳴りがする
- 急に川の水が濁り、流木が混ざり始める
- 腐った土の匂いがする
- 降雨が続くのに川の水位が下がる

Point

大雨警報発令中に土砂災害の危険性が高まった場合には、気象庁と都道府県が共同で「土砂災害警戒情報」を発表します。高い確率で災害が発生するため、警戒情報が発表されたら避難指示を待たずに速やかに自主避難を開始しましょう。

予測して早めの避難行動を

- ① 会社所在地、または住んでいる場所、施工現場が地形的にどのような危険性を有しているのか、市区町村や国交省のハザードマップで確認する。
- ② 気象庁からの警報に注意する。
- ③ 警報が出されている危険な状況が長期間続きそうな場合や、市区町村からの避難勧告、避難指示が発表されたら安全な場所に避難する。





落雷とは

雷が落ちることを言い、落雷時の電圧は200万～10億ボルトにも達します。地上の突起物に落ちやすい性質がありますが、開けた平地にいる時や木の下で雨宿りをしているとき等に落雷被害に遭うこともあります。雷鳴が聞こえたり、雷雲が近づいているときは、落雷が差し迫っています。雷から身を守るために、注意が必要な場所や安全な場所を知っておくことが大切です。

注意が必要な場所

グラウンド、公園、海岸、ゴルフ場など周囲の開けた場所で、特に高い木や建屋などの近く

積乱雲が近づくサインに気づいたら、速やかに安全な場所に避難しましょう。一般的には、30分から1時間程度で弱まることが多いため、気象情報を確認しながら、安全な場所で積乱雲が過ぎ去るのを待ちます。(出典:気象庁)

気象庁の雷ナウキャストの見方

活動度	雷の状況		屋外において想定される対応	屋内や工場などで想定される対応
4	激しい雷	落雷が多数発生している	○屋外にいる人は落雷の危険があるため、建物や車の中へ移動するなど、安全確保に努める。 ○屋内にいる人は外出を控える。	○パソコンなど家電製品の電源を切り、コンセントを抜く。 ○工場の生産ラインなどリスクの大きい場所では作業の中止や自家発電への切替などの対応をとる。
3	やや激しい雷	落雷がある		
2	雷あり	電光が見えたり雷鳴が聞こえる落雷の可能性が高くなっている		
1	雷可能性あり	現在、雷は発生していないが、今後落雷の可能性がある。	今後の雷ナウキャストや空の状況に注意する。	

※活動度1～4になっていない地域でも、積乱雲が急速に発達して落雷する場合がある。



竜巻とは

竜巻は、空気が地上から上空へ激しく吹き上げられてできますが、突発的に発生することが多いため、大雨等の予測に比べると、高い精度で予測することは困難です。ただし巨大な積乱雲が発生したり、急に冷たい風を感じる、雷鳴が聞こえるなどの前兆現象を伴うことがあります。竜巻に関する気象情報が発表されたときや、実際に竜巻に遭遇したときに、どのような行動をとるべきか、日ごろからよく考えておくことが大切です。

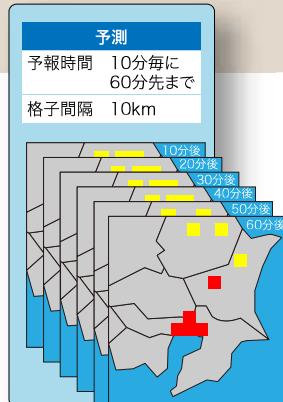


屋内にいたら

時間的余裕がなく遠くまで避難ができない時は、窓が割れないよう、また風が吹き込まないよう雨戸を閉め、頭を守りながらトイレやバス台、地下室などに避難

屋外にいたら

なるべく頑丈な建物に入り、窓などからできる限り離れましょう。車で移動中なら交通の邪魔にならない場所に停車し、頑丈な建物内に避難



竜巻発生確度ナウキャスト

気象庁では、竜巒などの激しい突風が予想される場合には、「竜巻」を明記した雷注意報を数時間前に発表します。そして、今まさに発生しやすい気象状況になった場合には「竜巻注意情報」を発表します。また、竜巻などの激しい突風が発生しやすい地域の詳細な分布と1時間先までの予報として、「竜巻発生確度ナウキャスト」を提供しています。(出典:気象庁)

